

眼科領域におけるloracarbefの臨床的検討

磯部 裕・秦野 寛・大野 重昭
横浜市立大学医学部眼科学教室*門之園 一明・森 富喜子
横浜南共済病院眼科

新しい経口カルバセフェム剤loracarbefを麦粒腫3例、急性結膜炎1例、慢性結膜炎1例、角膜炎1例、角膜潰瘍1例の計7例に対して、1日400mgまたは600mg、2~14日間経口投与した。臨床効果は著効3例、有効4例であった。細菌学的効果については、検索しえた *Staphylococcus epidermidis* 1株に消失をみた。副作用は1例に軽度の軟便が認められた。

Key words : loracarbef, 経口カルバセフェム剤, 眼科領域感染症

Loracarbef(LCBF)は協和醸酵工業株式会社が開発した新しい経口カルバセフェム剤である。本剤は3位と7位にceftiofur(CCL)と同一の側鎖をもち、グラム陽性菌および陰性菌に対しCCLとほぼ同様の抗菌スペクトラムを有し、その経口吸収性もCCLに優っている¹⁾。今回我々は、LCBFを外眼部感染症に対し使用する機会を得たので、その成績を報告する。

対象は平成3年1月より平成3年12月までの12ヶ月間に横浜市立大学医学部附属病院および横浜南共済病院の眼科外来を受診し、外眼部感染症と診断され、さらに本剤投与の同意の得られた症例である。LCBFは、1日量を400~600mgとし、1回200mgを1日2~3回食後に経口投与した。本剤投与前後の観察項目は、自覚症状として眼痛、異物感、羞明、流涙など、他覚所見として眼分泌物、充血(発赤)、眼瞼腫脹などである。

これらの観察項目の薬剤投与前、投与後3日目、7日目の変化から臨床効果を著効、有効、やや有効、無効の4段階にわけ、判定した。また、投与前後に可能な限り細菌検査を実施し細菌学的効果の検討を行った。あわせて、副作用についても検討した。

症例の一覧をTable 1に示す。症例は計7例で、男性6例、女性1例、年齢は22~73歳で、疾患別では、麦粒腫3例、急性結膜炎1例、慢性結膜炎1例、角膜炎1例、角膜潰瘍1例であった。

臨床効果を疾患別にみると、麦粒腫3例では、全例とも投与3日以内に治癒または自覚症状、他覚所見とも改善を認め、著効と判定した。急性結膜炎1例および慢性結膜炎1例では、投与7日目で自覚症状は改善したが充血や眼分泌物は残存しており、有効と判定した。角膜炎1例では、投与7日目に角膜のびらんを含

Table 1. Clinical results of loracarbef treatment

No.	Age · Sex	Diagnosis	Eye	Organism	Daily dosage (mg × times)	Duration (days)	Total dose (g)	Effect	Side effects
1	47-M	hordeolum	OD	(-)	200 × 3	2	1.0	excellent	loose stool
2	29-M	hordeolum	OD	(-)	200 × 3	11	6.6	excellent	-
3	22-F	hordeolum	OD	(-)	200 × 3	7	4.2	excellent	-
4	59-M	acute conjunctivitis	OD	<i>S. aureus</i>	200 × 2	7	2.8	good	-
5	29-M	chronic conjunctivitis	OS	<i>S. epidermidis</i>	200 × 3	14	8.4	good	-
6	29-M	keratitis	OS	(-)	200 × 2	6	2.4	good	-
7	73-M	corneal ulcer	OD	(-)	200 × 2	6	2.4	good	-

OD: oculus dexter OS: oculus sinister

*〒236 横浜市金沢区福浦3丁目9番地

めてすべての症状が消失しており有効、角膜潰瘍1例では7日目に潰瘍の縮小を認め有効と判定した。

細菌検査では投与前に *Staphylococcus aureus*, *Staphylococcus epidermidis* 各1株が分離された。薬剤の投与前後で細菌検査を施行し、細菌学的効果の検討ができた症例5では *S. epidermidis* の消失をみた。

副作用としては症例1に軽度の軟便が認められた。投与2日目に麦粒腫が治癒したため内服を中止、その

後1日で症状は消失した。

以上より、LCBFは安全性について特に問題はないと考えられた。経口剤である本剤は眼科領域感染症に対して使いやすく、また有用であると考えられた。

文 献

- 1) 大森弘之, 原 耕平: 第40回日本化学療法学会西日本支部総会, 新薬シンポジウム。KT3777, 岡山, 1992

Clinical study of loracarbef in ophthalmology

Yutaka Isobe, Hiroshi Hatano and Shigeaki Ohno

Department of Ophthalmology, Yokohama City University School of Medicine
3-9 Fukuura, Kanazawa-ku, Yokohama 236, Japan

Kazuaki Kadonosono and Fukiko Mori

Department of Ophthalmology, Yokohama Minami Kyosai Hospital

Loracarbef, a new carbacephem antibiotic for oral use, was administered to 7 patients with eye infections, including 3 patients with hordeolum, 1 with acute conjunctivitis, 1 with chronic conjunctivitis, 1 with keratitis and 1 case with corneal ulcer. The clinical efficacy was excellent in 3 and good in 4. As to side effects, loose stool was observed in one case.